

東三河支部

9月例会開催



東三河支部（松井忠博支部長）は9月例会として、9月11日（火）午後2時30分から、（株）マルコー商会 富士見りサイクルセンター（豊橋市富士見町）で施設見学を行い、36名が参加しました。

開会の挨拶で松井支部長は、「今年は台風の上陸が多く各地に被害をもたらしております。自然災害が多発しておりますので、今一度、会社内の災害対策についてご確認をお願いいたします。本日はマルコー商会様の富士見りサイクルセンターの見学を行います。循環型社会形成に向けた最新設備のセンターは、会員の皆様にとりましては大変参考にしていただけると確信しております。」と述べました。続いて研修指導委員長 土井政博氏は、「昨年はバイオマス利活用センターへ見学に行きましたが、今年は4月から本格的に始動しました富士見りサイクルセンターへの見学となりました。複雑なラインを組み合わせ、多くの処理が行われておりますので、映像にて解説をいたします。」と述べ、センターの紹介映像を見ました。

その後2階に設置された見学通路へ移動し、各種設備機器や廃棄物処理の流れを見ました。

土井委員長からは、廃棄物の搬入から重機を使つての粗選別、手選別ラインの特徴などについて説明がありました。

計画段階において、当初手選別ラインについてもロボットを多用した機械化及び自動化の方向で考えていたようですが、試行錯誤の結果、軽量物と重量

物の2層の手選別ラインで選別したほうが、選別の精度とスピードが上がり、品質・効率共に飛躍的に向上したとのことでした。

中央制御室では、自動化に必要な監視カメラや機器のコントロール機器が設置され制御システムの役割と仕組みについて説明を受けました。

これまでの産業廃棄物処理施設は、処理設備と付帯設備の共存が難しく、処理を見せることを考えていない施設が大多数です。同センターでは、作業の見える化にも重点を置き、処理施設のイメージを一新すべく建物にもこだわっています。また、一つの施設に選別・破碎設備と水洗い設備を併設しており、選別したものをより完成度の高い製品にするために、最後にほこりやごみを洗い落とすという、できる限り連続した処理ができるように作り上げた全国最大規模の処理施設であるとのことでした。

参加者からは、「現場で行う分別解体が、廃棄物処理を行う工程に影響することが理解できました。廃棄物の分別に、なぜ多くの処理が必要なのかも目で見て納得しました。ここまで一貫したリサイクル施設を見学したことがなかったので参考になりました。」と感想があり、見学を終え、例会は終了しました。

